

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	5	ささえあい・雄武	整理番号	78
基本施策	23	多様な交流の促進	評価責任者	財務企画課長 佐々木幸博
単位施策	2	地域間交流の促進		教育振興課長 澤田 朋朗

1 施策の概要

基本方針	これまで実施されてきた地域間交流を継承するとともに、新たな交流の拡大を働きかけていきます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	佐賀県武雄市、栃木県益子町との交流や札幌・東京雄武会とのふるさと交流を行っている。武雄市とは児童交流も相互に行っており、益子町からは民間主導で児童の受入れが行われているほか、産業祭で本町特産品の販売が行われている。	佐賀県武雄市、栃木県益子町との交流や札幌・東京雄武会とのふるさと交流を行っている。武雄市とは児童交流も相互に行っており、益子町からは民間主導で児童の受入れが行われているほか、産業祭で本町特産品の販売が行われている。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	引き続き、住民相互が交流する場を提供するとともに、交流を通じて本町の観光・産業等の魅力を発信し、イメージ向上を図りながら、より効果的に相互理解と友好親善を深めていく必要がある。	引き続き、住民相互が交流する場を提供するとともに、交流を通じて本町の観光・産業等の魅力を発信し、イメージ向上を図りながら、より効果的に相互理解と友好親善を深めていく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	国際・地域間交流の満足度						
	定義等	まちづくりアンケート等により「満足」「やや満足」と回答した者の比率						
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値	14%（H18）	未調査	14%	未調査	未調査	未調査	20%
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	雄武町合宿招致推進事業	企画調整係	0	C	継続/内容の見直し・変更	C
②	地域間交流推進事業	企画調整係	1,939	A	継続/現状維持	A
③	【再掲】 武雄市児童交流事業	生涯教育係	2,653	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	地域間交流は、継続の積み重ねも重要であり、これまで実施されてきた交流を継承しており、妥当と判断する。
② 有効性	A	受入れのメインは産業観光まつりに際するもので、本町の観光資源・産業資源のPRにも効果を発揮しており、この継続は有効である。また、児童による交流事業についても異文化に接する機会の確保となっており、有効性は高いといえる。
③ 効率性	B	「ふる郷ふれあい交流会」の参加者からは基本的に会費を徴収しているほか、武雄市への派遣児童からも負担金を徴しており、効率的に行われている。
④ 公平性	A	「ふる郷ふれあい交流会」の参加については、広く町民に周知しており、会費制も敷いている。武雄市への児童交流においても学校で全対象児童に呼びかけて決定しており、参加機会の公平性を保っている。
⑤ 町民意見の反映	A	「ふる郷ふれあい交流会」や札幌雄武会への参加のための送迎体制を整備するなど、町民ニーズに対応している。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
計画どおり事業が実施されており、地域間交流の促進となっている。	同 左	

今後の方向性	継続/現状維持	継続/現状維持
<div style="text-align: center;"> </div>	<div style="text-align: center;"> </div>	<div style="text-align: center;"> </div>
計画どおり事業が実施されており、現在の施策を継続することは必要であるが、今後は町のイメージアップにつながる情報発信やより効果的な交流のあり方についても検討していく必要がある。	同 左	
＊今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		